

## 強力(ごうりき)への想い…

### 何故、江の島で行うのか？

1964年東京オリンピック開催まで江の島頂上付近に大平さんという強力が実在した。さらに江戸時代には、日本一の力持ちと言われた越谷出身の卯之助（岩槻藩）が持ち上げた80貫の石（320kg）が今でも飾られている。※奥津宮付近

江の島神社には海の守護神でもある三姉妹の女神が祀られているが、1923年9月1日の関東大震災の被害は、地震による津波により島内で児童2名が流され、大橋を渡橋中の団体客60名程が棧橋と共に流され全員行方不明になった歴史的背景がある。

現在、南関東地震を想定した第一波は最短で10分以内に高さ5m弱、最大波は23分後に9.8mなので仲見世通りよりもいち早く上に避難することが必要だが、車椅子の利用者は階段の多い避難経路を自力で避難することが困難である。

### 何故、強力なのか？

強力または剛力(ごうりき)とは歩荷や登山案内を生業とする日本古来の運送業者のこと。

歩荷(ぼっか)とは荷物を背負子に寄せ山越えや山小屋に荷揚げすることを生業にする人。つまり、山岳ガイド「おもてなし」を兼ねるのが強力の特徴である。

日本一の富士山に登るため、強力の力を借りて荷物等を民宿に届けてもらいながら登山を楽しむ方が多くいた時代に、富士山一の名強力と呼ばれる「小見山正」さんは180kgの石を背負い富士登山をしたことで有名。富士山案内人・山岳会の他に足柄村消防組頭を兼任し、「気は優しくて力持ち」を貫き通した生き方は今でも伝説である。

### 日本最幸のおもてなし

上記の2つより東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、セーリング会場となる藤沢から「最幸のおもてなし」を発信するため何を成し遂げるべきか模索していた所、そこで出た答えは、「強力復活」というキーワードであった。

東日本大震災以降毎年訪れている陸前高田市は、日本一多く消防団員が亡くなられた地域、そこで出会った消防団関係者からいただいた生きるエネルギーと、小見山正さんの生き方が重なり、私の頭の中で化学反応を起こしたのである。

「津波避難は高台にある神社等を目指せ！」「共助は5人で1単位」「お互い様とはヒューマンチェーンの繋がり」等様々なメッセージを伝えながら、現代風に進化した強力は「人の命」を通じて夢と希望を運んでいく。かなりの年月を要することは覚悟しているが、新たな日本の防災・減災意識としての文化を根付かせることも強力には可能性があるかと信じている。何故なら、日本地図が優しいおもてなしであるリクライニングした椅子の形に見えるから…